

## 「ほっといたらあかんやん！第18回大阪湾フォーラム（バーチャルツアー）」参加概要

- 日時 令和4年3月6日（日）13:00～15:30
- 場所 リモート開催（zoom 利用）
- 主催 大阪湾見守りネット、大阪湾環境保全協議会、  
国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所

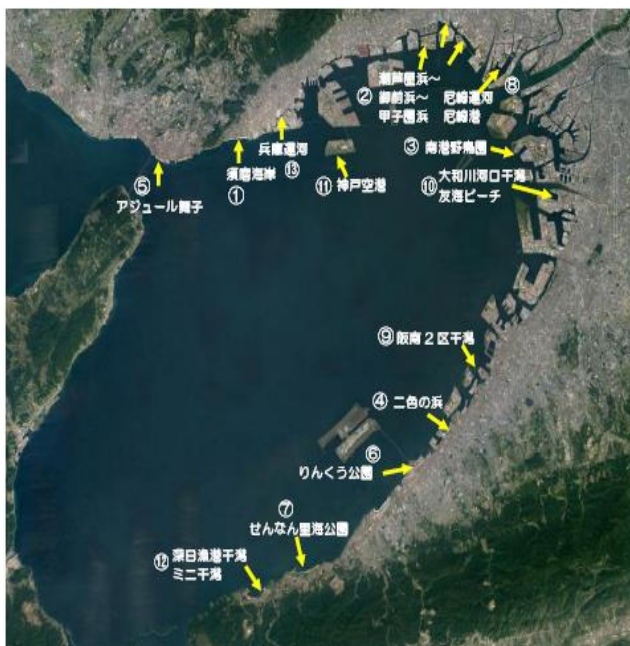
3月6日、第18回大阪湾フォーラムが開催されました。昨年度に引き続きリモートでの開催となり、バスに乗って大阪湾の人工の海浜・干潟・藻場等を巡るという設定で、バーチャルツアーが行われました。

ツアーは、大阪湾の埋め立ての年代に沿って須磨海岸から始まり、快晴の海を背景に現地レポート、人工海浜の歴史や干潟の特徴、浅瀬を泳ぐ小魚、干潟に集まる野鳥の話などが紹介されました。バスに乗り込んでいる高校生の皆さんからは、次々と質問が飛び交いました。

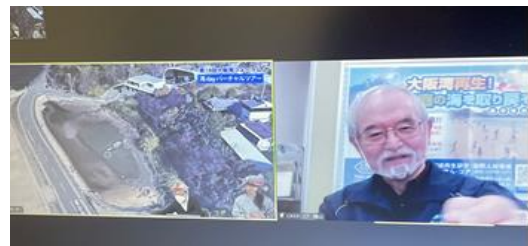
CIFER・コアは事務所から参加しました。バスが渋滞（ここでは、個々の説明が長くなること）したため、当初予定よりも遅れて15時15分頃から深日漁港ミ二干潟を紹介しました。同干潟において平成26年度と27年度に開催した「ミ二砂浜つくろう会」では、CIFER・コアサポーター会費で約100tの砂を購入し、その砂は多くの人の手によるバケツリレーで海辺まで運び入れ、子どもたちが安全に海に近づけるように砂浜を造ったことなどを、写真を使って説明しました。会費3千円分の砂の量は、一粒の砂を0.6ミリの粒に換算すると25億個になるという話なども紹介しました。

深日漁港ミ二干潟では、毎年、岬町立岬中学校科学部のメンバーが西宮貝類館顧問の山西良平先生の指導を受けながら大阪湾生き物一斉調査に参加しており、ハクセンシオマネキや希少種をたくさん確認しています。リモートでは山西先生も加わり、深日漁港ミ二干潟の豊かさについて「外海とつながる暗渠（導水工）の高さがちょうど良いため、満潮と干潮の際に海水の出入りが円滑で、その結果、いろんな種類の生き物がたくさん生息しているのでは」と話されていました。

バーチャル上での長いツアーでしたが、有意義な一日となりました。



バーチャルツアーのコース



深日漁港ミ二干潟の解説をする  
横山理事（上）と山西先生（下）